む人間がふるさとを見直すことにつながっていきます。

市長　「おばあちゃん、そこでわずかなものを作るよりも、スーパーで買ってきてあげるよ。」と言ってしまったら、その人のその土地に対する思いを否定されることになると思います。土地の暮らしを守らなければという思いで市政を進めています。

三浦　それはとても心強く、うれしいお話ですね。

市長　さて、昨年、映画「WOOD JOB!(ウッジョブ！)～神去なあなあ日常～」の公開にあわせ、５～８月末まで、美杉町上多気にある道の駅美杉で「神去なあなあ日常記念館」をオープンしましたところ、４カ月の間に１万２千人を超える皆さんにご来館いただきました。さらにロケ地ツアーを企画したところ、募集人数に対し、16倍ものご応募をいただくなど、大変な人気でした。そこでロケ地ツアーに当選された皆さんに、名松線でお越しいただけませんかと呼び掛けを行いましたところ、ツアー参加者の６割の皆さんが実際に名松線に乗って、集合場所の伊勢奥津駅まで来てくださいました。今回、ロケ地ツアーに参加いただいた皆さんには、美杉の自然を存分に体感していただけたのではないかと思っています。

三浦　今回の映画の撮影やロケ地ツアーは、現地で直接拝見できなかったのですが、ウェブサイトやブログなどでは、たくさんの人が実際に美杉に足を運び、楽しんだ感想を書き込んでいらっしゃるようですね。映画というのはこんなに影響力があるものなのだと感じ、とてもうれしく思いましたし、何かいつものふるさとと違うような印象を受けました。

市長　ロケ地ツアーで美杉を訪れていただいた皆さんからは「自然豊かでとても良い所ですね」「素晴らしい景色ですね」といった感想をたくさんいただきました。こういったことが地域の方々の自信につながりますし、地域や神去村青年団の皆さんも新しい取り組みをしてみようじゃないかと盛り上がり、元気になっていらっしゃる。自分たちが住んでいる美杉ってすごい所なんだなあ、良い所なんだなあと再確認できた、そんな映画だと思いました。

三浦　やはりどうしても離れた村っていうのは、狭く閉じてしまうところがあるように思います。しかし、それは本来開かれているはずで、いくらどんな場所だってどこかとつながっている、そういうつながりを、いつもつくっておかないといけないんだと思いますね。

市長　津市は10の市町村が合併し、今年10年目を迎えます。私も市長として、人や地域とのつながりを大切にし、この地域に住んでいることに誇りを持ちながら暮らしていける社会をつくっていきたいと思います。最後に故郷津市にメッセージをいただけますか。

三浦　大きなことは言えませんが、自分の住まう地域が素晴らしい所だと感じ、そこで暮らすことを誇りに思える何かが必要なのだと思います。それはあらゆる形で活力になっていく。そのためにも常に外部と交わり、世代間の交流ができる共同体ができればいいと思います。

市長対談は津市ホームページ・市長の部屋の市長対談でもご覧いただけます。　HP 津市　市長対談　検索